

総括研究報告書

がん・生殖医療専門心理士養成に関する報告書

研究協力者：奈良和子（亀田総合病院 臨床心理士/がん・生殖医療専門心理士）

要旨

近年、妊孕性温存する若年がん患者が増加している。2013年 ASCO 改訂ガイドラインでは、がん患者が妊孕性消失の可能性について苦悩を感じたら心理専門職に紹介することが推奨されており、がん患者への妊孕性温存に関わる心理支援のニーズが高まっている。平成 28 年 4 月に日本がん・生殖医療学会と日本生殖心理学会の共同で「がん・生殖医療専門心理士」の養成講座を開催し、18 名のがん・生殖医療専門心理士が認定された。認定者は生殖医療施設に勤務しており、今後は生殖医療現場でも、がん患者への心理支援を行う事が可能となる。平成 29 年度からは対象者を広め、がん領域の臨床心理士に対してがん・生殖医療専門心理士養成を行う予定である。

A. 目的

近年、妊孕性温存する若年がん患者が増加している。2013年 ASCO 改訂ガイドラインでは、がん患者が妊孕性消失の可能性について苦悩を感じたら心理専門職に紹介することが推奨されており、がん患者への妊孕性温存に関わる心理支援のニーズが高まっている。

本邦ではがん患者に対する緩和医療や心理支援は行われるようになってきているが、若年がん患者に対する妊孕性温存等がん・生殖医療に関わる心理支援は、必要性は認知されつつあるが、現状では行われていると言えない状況である。

妊孕性温存等がん・生殖医療に関わる心理支援は、がん治療と生殖医療の両分野についての広範な医療知識とがん患者への心理援助技術が必要となる。医療知識や援助技術の教育無しには心理支援者は増加しないと考え、がん・生殖医療の心理支援者を養成する事とした。

B. 方法

日本がん・生殖医療学会（JSFP 理事長：鈴木直）は、不妊カウンセリングに関する臨床心理士、及び相談士の専門教育に実績のある日本生殖心理学会（JSRP 理事長：森本義晴）に協力を依頼した。平成 27 年に日本生殖心理学会では、がん生殖保存心理カウンセリング小委員会（委員長：高見澤聡）を立ち上げ準備を進めた。

平成 28 年 4 月に日本がん・生殖医療学会と日本生殖心理学会の共同で「がん・生殖医療専門心理士」の養成講座を開催する運びとなった。

1) 対象者

初年度は生殖医学の知識、不妊体験者の心理、体外受精などの生殖補助医療について学んでいる生殖心理カウンセラー（日本生殖心理学会認定資格）を対象とした。

2) 養成講座カリキュラム

妊孕性温存等がん・生殖医療の対象となる頻度の高い癌腫（乳癌・婦人癌・泌尿器癌・血液癌）を取り上げ、癌治療の実際と

妊孕性への影響、妊孕性温存の現状等の講義。

がん患者への援助技術として、精神的アセスメント、がん心理療法、がん支持療法、家族ケア、生活支援、倫理問題などの講義。精神的アセスメント、がん心理療法や、グループワークなどの演習。

がん・生殖医療分野では、がん治療による妊孕性低下について、妊孕性温存方法、妊孕性温存の相談時に生じる心理社会的問題、診断からがんサバイバーにおける長期心理支援、医療間・職種間連携について、講義と介入演習。海外の Oncofertility ネットワークの現状や本邦での現状や課題などについても学ぶ。

講義と演習を合わせて33時間のカリキュラムとなっている。(資料1)

3) 養成講座の講師

講義、演習は医師、研究者、臨床心理士、看護師、ソーシャルワーカー他、各分野の第一人者に依頼した。(資料2)

4) 認定試験

講義と演習を受講した後、認定試験を行い、7割以上正答できた者を認定した。

5) 認定について

日本生殖心理学会、日本がん・生殖医療学会の両学会の認定資格となる。資格取得者の専門的資質を保障するためのシステムとして、「がん・生殖医療専門心理士」には5年ごとに資格更新を義務づけた。

「がん・生殖医療専門心理士」の資格は生涯資格ではなく、研修を義務づけた上での資格の更新という厳しい基準を有した資格制度となっている。(資料3)

6) 認定者に対する陪席研修

認定者に対して臨床の場を体験して頂くために「がん生殖外来の陪席研修」を用意した。(資料4) 陪席研修先は聖マリアンナ医科大学 がん生殖外来(産婦人科学 鈴木

直教授)にご協力頂き、15名の認定者が参加した。

C. 結果

平成28年度は18名のがん・生殖医療専門心理士が認定された。認定者は、岩手・千葉・東京・山梨・愛知・大阪・岡山・広島・愛媛・大分・長崎・鹿児島と本州の南北に散らばっている。認定者は生殖医療施設に勤務しており、今後は生殖医療現場でも、がん患者への心理支援を行う事が可能となる。

D. 考察

がん・生殖医療専門心理士の認定者はまだ少なく、本邦の妊孕性温存等がん・生殖医療を求める若年がん患者へ心理支援を行うには人数が不足している。国立がん研究センターがん情報サービス(ganjoho.jp)によると、がん診療連携拠点病院399箇所、地域がん診療病院28箇所のうち、臨床心理士がいる施設は315箇所(2016年11月現在)ある。緩和医療をはじめ、がん患者支援をしている臨床心理士は数多くいるため、平成29年度からは、がん領域の臨床心理士に対してがん・生殖医療専門心理士養成講座の対象者を広める予定である。

今後はがん治療施設でも、妊孕性温存等がん・生殖医療の心理支援を受けられるように、本邦のがん・生殖医療体制を整えていく予定である。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

1) 奈良和子・宮川智子・大内久美・川井清考

「総合病院におけるがん・生殖医療への取り組み」第29回サイコオンコロジー学会；札幌コンベンションセンター（北海道）；2016年9月23日

2) 奈良和子・宮川智子・金高智子・細川裕子・山田成子・寺岡香里・川原麻実・原田竜也・川井清考 「がん・生殖医療における心理支援の取り組みと展望」第17回千葉リプロダクション研究会；三井ガーデンホテル千葉（千葉県）；2016年10月1日

3) Kawai K, Ohuchi K, Nara K, Miyagawa T, Kidera N, Iwahara Y, Yamamoto A, Ishikawa T, Kawahara M, Teraoka K, Harada T 「Efficacy of Random-start Controlled Ovarian Stimulation in Breast Cancer Patients」1st ASFP Conference；ホーチンミン；2016年11月19日（ベトナム）

4) 奈良和子・宮川智子・小石川比良来・大内久美・川井清考 「がん・生殖医療受診時の患者の精神状態と妊孕性温存実施の関連性についての検討」第29回日本総合病院精神医学会学術総会；日本教育会館（東京都）；2016年11月25日

5) 奈良和子・宮川智子・福間英祐・川井清考 「若年乳がん患者の妊孕性温存に対する心理支援」厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究（がん制作研究））推進事業 若年にゆうがん患者の妊孕性温存に関する心理支援セミナー；横浜情報文化センター（神奈川県）；2017年1月29日

6) 奈良和子・宮川智子・川井清考 「がん患者の妊孕性温存に対する心理的支援」日本A-PART学術講演会2017；ハイアッ

トリージェンシー東京（東京都；）2017年3月19日

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案
なし
3. その他
なし

回	月日	講	時刻	分	講義名	内容	講師
第1回	4月16日 (土)	—	13:00-13:30	30	オリエンテーション	ガイダンス	
		1	13:30-15:30	120	がん生殖医療の心理ケア総論		奈良
		2	15:45-17:45	120	がん生殖医療における心理療法概論		小泉
		3	18:00-19:00	60	がん患者の社会資源・生活支援		福地
	4月17日 (日)	4	9:00-10:30	90	がん患者の精神症状・心理アセスメント総論		大西
		5	10:40-12:10	90	心理アセスメント演習		大西
		6	13:10-14:40	90	がん医療の実際と生殖機能への影響—血液がん		蘆澤
		7	14:50-15:50	60	個人に対するがん生殖医療心理カウンセリング		橋本
第2回	5月14日 (土)	8	15:50-16:50	60	夫婦・家族に対するがん生殖医療心理カウンセリング		宮川
		9	13:00-14:30	90	がん患者の心理的問題		藤澤
		10	14:40-16:10	90	がん支持療法演習		藤澤
		11	16:20-17:50	90	がんCBT、リラクゼーション演習		藤澤
	5月15日 (日)	12	18:00-19:00	60	がん生殖医療の倫理的問題		己斐
		13	9:30-11:00	90	妊孕性温存の方法と適応		古井
		14	11:00-12:30	90	がん生殖医療における生殖医療の実際		古井
		15	13:30-15:00	90	がん医療の実際と生殖機能への影響—精巣腫瘍・男性のがん		田井
第3回	6月25日 (土)	16	15:10-16:40	90	がん医療の実際と生殖機能への影響—婦人科がん		鈴木
		17	13:00-14:30	90	職種間の連携、他職種チームアプローチ		山崎
		18	14:40-16:40	120	実践介入演習		奈良
	6月26日 (日)	19	16:50-18:50	120	心理教育演習		小泉
		20	9:00-10:30	90	がん医療の実際と生殖機能への影響—乳がん		清水
		21	10:40-12:10	90	グリーフセラピー演習		上野
		22	13:10-14:40	90	夫婦・家族アプローチ演習		平山

1980 h

認定 試験	6月26日 (日)	—	14:40-15:30	50	認定試験ガイダンス・休憩
			15:30-16:30	60	認定試験(筆記)

2016 年度 がん・生殖医療専門心理士養成講座

<講座責任者>

高見澤 聡 国際医療福祉大学病院 リプロダクションセンター 教授

<講師> (50音順)

蘆澤 正弘 自治医科大学医学部 内科学講座血液部門 助教
上野 桂子 大分県不妊専門相談センター 臨床心理士
大西 秀樹 埼玉医科大学国際医療センター 精神腫瘍科 教授
小泉 智恵 国立成育医療研究センター研究所 副所長室付研究員
己斐 秀樹 田園都市レディースクリニック二子玉川 副院長
清水 千佳子 国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科 医長
鈴木 直 聖マリアンナ医科大学 産婦人科学 教授
田井 俊宏 東邦大学医療センター大森病院 泌尿器科 助教
奈良 和子 亀田総合病院 臨床心理室 臨床心理士
橋本 知子 IVF なんばクリニック統合医療部門 臨床心理士
平山 史朗 東京 HART クリニック 臨床心理士
福地 智巴 静岡県立静岡がんセンター医療ソーシャルワーカー
藤澤 大介 慶應大学医学部 精神・神経科学教室 講師
古井 辰郎 岐阜大学医学部 産婦人科 准教授
宮川 智子 亀田総合病院 臨床心理室 臨床心理士
山崎 圭子 東邦大学看護学部 准教授

※都合上、講師は変更する場合がございます。何卒ご了承下さい。

<事務局>

久保 忠彦 株式会社ヒューマンリプロ・K 代表 / 事務局

久保 敦 株式会社ヒューマンリプロ・K / 事務局

<事務局連絡先>

TEL : 045-937-1039 / 当日連絡用携帯電話 080-5063-0262

FAX : 045-937-1029

E-mail : info@jsrp.org

hrepro.k@gmail.com

「がん・生殖医療専門心理士」資格更新制度について

資格取得者の専門的資質を保障するためのシステムとして、「がん・生殖医療専門心理士」には5年ごとに資格更新が義務づけられています。これは「がん・生殖医療専門心理士」の生涯研修的課題ともいえるもので、50ポイントの評価を前提に、この資格更新が実施されています。「がん・生殖医療専門心理士」の資格は生涯資格ではなく、研修を義務づけたうえでの資格の更新という厳しい基準を有した資格制度です。

この手続きは、資格の発効日から5年ごとに行われます。具体的には、認定後5年を経過するまでに、下記の(1)～(5)の研修等に参加(発表)し、計50ポイント以上を取得していなければなりません。但し(1)は必須となります。

(初年度のみ登録日より、次々年3月31日まで。2016年認定登録の場合、2016年登録日から2022年3月31日まで、以降4月1日より5年後の3月31日まで)

領 域：

- (1) 本学会が主催する「学術集会」または「継続研修会」等で合計30ポイント以上の取得
- (2) 本学会が認める生殖医学分野における関連学会(地方部会を含む)が主催する「学術講演会(学術集会等)」または「研修会(ワークショップ・セミナー等)」への参加
- (3) 本学会が認める心理学分野における関連学会・団体が主催する「大会(学術集会等)」または「研修会(ワークショップ・セミナー等)」への参加
- (4) 本学会が発行する学会誌、もしくは本学会が認めるがん・生殖心理カウンセリング関係の研究論文の公刊及び著書の出版
- (5) 本学会が認めるがん・生殖心理カウンセリングに関する教育・啓蒙活動

- ・ (1)、(2)、(3)の対象となる学会等ならびにポイントについては、別資料「がん・生殖医療専門心理士」資格継続認定対象学会・研修会リスト」を参照してください。なお、(2)、(3)について、リストに掲載されていない学会等で研修ポイントの申請を希望する場合には、プログラムや抄録集(コピー可)を添付して申請を行ってください。学会理事会で継続研修として適当と判断された場合にはポイントを算定します。
- ・ (4)について、本学会が発行する学会誌以外は、以下のようにポイントを算定いたしますが、算定対象となるかどうかの判断は学会理事会で判断いたしますので、ご了承ください。
 - ▶ オリジナルの著書：15ポイント
 - ▶ 学術雑誌に発表した原著論文：8ポイント
 - ▶ 啓発的な著作物(訳書・テキスト・ビデオ教材)：5ポイント(注) 共著の場合は、その著者数で除したポイントを各自取得する。
- ・ (5)については、以下のようにポイントを算定します。
 - ▶ 学術団体、自治体、不妊当事者団体(支援団体含む)が主催する、がん生殖分野での心理カウンセリングや不妊相談に関する研修会、講演会の講師：5ポイント
 - ▶ 学術団体、自治体、不妊当事者団体(支援団体含む)が主催する、がん生殖分野での心理カウンセリングや不妊相談に関する研修会、講演会の企画・運営(主体となり実施した場合に限る)：5ポイント(注) 所属する医療機関が主催する患者説明会等での講演等は算定対象となりません。

資格更新申請書の作成について

- ・ 同封した「作成の例」を参考にしてください。
- ・ ポイントの合計が50ポイント（うち、領域1にて30ポイント取得）を満たせばよいので、関連するすべてのポイントを報告する必要はありません。
- ・ 研修実績の対象となる期間は、認定登録日から5年間を経た3月31日までです。（初年度のみ登録日より、次々年3月31日まで。2016年認定登録の場合、2016年登録日から2022年3月31日まで、以降4月1日より5年後の3月31日まで）。

研修実績表記入の仕方

- ・ 整理番号は申請者本人が1番から順に記入してください。
- ・ 領域番号は、「『がん・生殖医療専門心理士』資格更新制度について」に対応する番号です。
- ・ 内容は簡潔に記してください。
- ・ ポイント数は、「『がん・生殖医療専門心理士』資格更新制度について」を参照して申請者本人が記入し、合計を計算してください。
- ・ 研修実績表が複数にわたる場合には、用紙を複写して使用してください。

研修実績証明書類添付用紙（以下、添付用紙）の使い方

- ・ 添付用紙には、研修実績を証明する書類（以下、証明書類）を研修実績表の整理番号順に並べて確実に貼付してください。
 - ・ ポイント種別（1）の、本学会主催の学術集会・継続研修会の参加については事務局が把握しておりますので、参加証明書の添付は必要ありません。
 - ・ 添付用紙が複数にわたる場合には、用紙を複写して使用してください。
 - ・ 添付用紙の全ページについて、署名とページ番号を記入してください。
 - ・ 各証明書類の左上に整理番号を記してください。
 - ・ 証明書類の現物を添付することが困難な場合には、明瞭なコピーでもかまいません。
 - ・ 研究論文の場合には、該当個所のコピーあるいは抜刷を添付し、表紙あるいは先頭ページの左上に整理番号を記してください。
 - ・ 著書の場合には、著者が申請者であることを明示できる個所のコピーを添付あるいは貼付し、その左上に整理番号を記してください。
- *提出された書類は返却いたしませんのでご留意下さい。

「がん・生殖医療専門心理士」資格更新 学会・研修リスト

領域	学会・研修名	参加(発表)形態 ※注3	ポイント
1	日本生殖心理学会 学術集会	研究発表者	15
		講演者・シンポジスト	15
		参加者	10
	日本生殖心理学会主催 継続研修会(4時間以上) ※注1	参加者	10
		日本生殖心理学会主催 継続研修会(4時間未満) ※注1	参加者
	その他 日本生殖心理学会共催の研修会等 ※注2	参加者	5
	日本がん・生殖医療学会 学術集会・シンポジウム	研究発表者・シンポジスト	15
		参加者	10
日本がん・生殖医療学会 主催研修会(4時間以上) ※注2		参加者	10
その他 日本がん・生殖医療学会共催の研修会等 ※注2	参加者	5	
2 (国内)	日本臨床腫瘍学会	参加者	5
	日本癌治療学会	参加者	5
	日本がんサポーターケア学会	参加者	5
	乳がん学会	参加者	5
	日本小児血液・がん学会	参加者	5
	日本泌尿器科学会	参加者	5
	日本サイコオンコロジー学会	参加者	5
	日本緩和医療学会	参加者	5
	日本総合病院精神医学会	参加者	5
2 (海外)	Oncofertility Consortium	参加者	10
	International Society for Fertility Preservation (ISFP)	参加者	10
	Asian Society for Fertility Preservation (ASFP)	参加者	10
	American Society for Reproductive Medicine (ASRM)	参加者	5
	European Society of Human Reproduction and Embryology (ESHRE)	参加者	5
3 ※注4	日本生殖心理学会誌	原著論文	15
		原著論文以外	10
	がん・生殖医療に関連する学術論文の出版物への掲載	原著もしくは原著に相当するもの	8
	がん・生殖医療に関連する著書の出版	主著者であること	15

【註】

※注1 がん生殖医療にかかわる内容が含まれている場合にのみポイント対象となる

※注2 日本生殖心理学会と日本がん・生殖医療学会共催の研修会の場合は、いずれか一方の主催の研修会として算定する。

※注3 ポイントとして算定するかどうかの判断は、委員会にて判断するため、ポイント申請の際には余裕をみておくこと。

※注4 表に示されたポイントは、筆頭発表者・筆頭著者である場合のものである。共同発表者・共著者の場合は、当該ポイント数を発表者・著者数で除した数をポイントとする(小数点以下切り上げ)。

がん・生殖医療専門心理士養成講座 がん生殖外来陪席について

実施施設/担当医師：聖マリアンナ医科大学 産婦人科学 鈴木 直 教授

日程：別紙資料をご参照下さい。

集合場所：聖マリアンナ医科大学医学部本館 3階 産婦人科医局

時間：当日 午前 10時

服装：白衣をご持参願います。その他規制は特にありません。

当日連絡先：電話：044-977-8111（大学大代表）→産婦人科医局 秘書へ

アクセスなど：下記大学ホームページ「アクセス」にてご確認ください。

http://www.marianna-u.ac.jp/houjin/access/access_02.html

※患者さんは、午前の予約で紹介、あるいは11時までの予約外で受診されるため、午前・午後に分けず、1日2名の受け入れとなります。

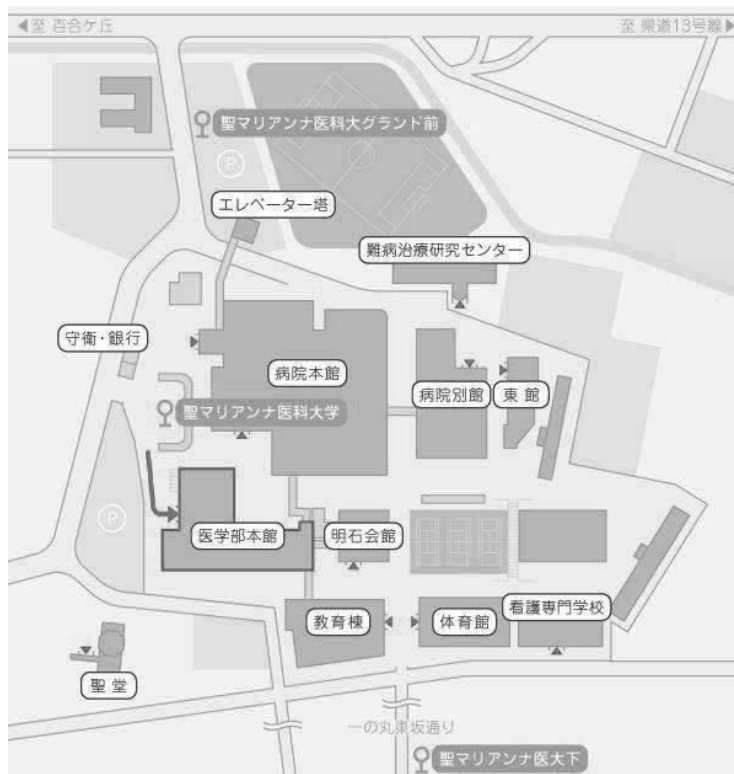
前もって予約患者が判明していることが多いですが、当日受診されない場合や、紹介患者がいない場合もありますので、その場合にはご容赦下さい。

※大学側も事前に受け入れ準備を行っておりますので、極力予定の変更は避けて下さい。

万が一、予定日の陪席が出来なくなった場合は、必ず早急に事務局にご連絡を頂き、代替日の設定もしくは休止の相談をして下さい。事務局より大学側担当者に打診させていただきます。また、当日急に陪席できない事が判明した場合は、まず大学当日連絡先へその旨を、次いで事務局にご連絡下さい。

【入館に際して】

- ・右図矢印の所から入館。
- ・入口受付にて入館記録に記載し『入館証』を受け取って下さい。
(記載時は訪問先を「産婦人科医局、西島 Dr.」として頂ければ大丈夫です)
- ・入口右手奥のエレベーターにて3Fへ。
エレベーターを降りたら右手廊下奥が、「産婦人科医局」となります。



【陪席報告について】

別紙「報告レポート」にご記載頂き、陪席後1ヶ月を目安に事務局までご提出下さい。

(個人が特定出来る、「氏名」「住所」等の情報の記載は避けて下さい)

「Word ファイル」に直接記載をご希望される場合、または振り返り用のより詳細な記録シート(提出の必要はありません)が御入用の方は、その旨を事務局までお申し出ください。次回講義時にサンプルをお持ちしますので、その場でデータをお渡しの事も可能です。